

広報

県遊協

山形県遊技業協会  
TEL 023-615-6922  
FAX 023-615-6923  
Eメール yamagata@zennichiyuren.or.jp

全日遊連青松理事長  
年頭のごあいさつ



新年明けましておめでとうござい  
ます。皆様には御家族、従業員  
の方々ともども輝かしい新春を迎えられたこと  
と、心からお慶び申し上げます。さて、今日の日  
本は急速な少子高齢化と経済のグローバル化の時  
代の到来を迎え、長期にわたって社会全体が閉塞  
感に覆われています。その中で一昨年に発生いた  
しました東日本大震災は、社会の有り様に変革を  
促す大きな契機となりました。社会の発展よりそ  
の内実の充実を求められる時代が変わってきたと  
言っても良いと思います。私たちの遊技産業も量  
的拡大から質的充実が求められる時代になったと  
言えます。しかし社会の変革のスピードに業界が  
ついていけない状況が続いています。そのことが  
急激な遊技人口の減少を招き、只でさえ厳しい営  
業環境を更に悪化させています。考えられ得る現  
状打開の有力な方策と思われることは、遊技産業  
挙げて、あらゆる面でこの業界を大衆娯楽の王様  
と呼ばれていた時代の姿に戻すことでありませ  
す。業界を巡るあらゆるデータを勘案してみまし  
ても、遊技産業の今後の消長には予断を許さないも  
のがあると感じています。本年は業界の明日を担  
う次の世代の為に、遊技人口を回復して安定し  
た営業環境を再構築していくスタートの年にした  
いと考えています。又、今年のお正月は、多くの  
人々に大きな悲しみをもたらした東日本大震災か  
ら数えて二回目の正月になります。歳月は人の喜  
び、悲しみに関わらず誰にも等しく巡り来ます。  
それは人智の及ばぬ不変のことですが、あの  
震災以来、被災地で過ぎ去った時間を思いやると  
き、遅々として進まない復興の道程にはある種の  
苛立ちを覚えるのは私だけでしょうか。時が過ぎ  
ゆく中で聞こえる着実な復興への槌音だけが、被

災地の人々の傷ついた心を少しづつ癒すことが出  
来ると思います。今年こそ復興作業が加速度的に  
進展することを強く望むばかりです。結びに本年  
も皆様のご健勝にてご活躍されることを祈念申し  
上げて、年頭のご挨拶といたします。

全日遊連 25年第一回理事会開催

平成25年1月25日・東京第一ホテル

第一号議案 ファン感受料の都府県組合への  
還元について

第二号議案 ㈱そごう・西武とのファン感業務  
委託及び売買基本契約の締結

第三号議案 全日遊連「低炭素社会実行計画」  
の策定について

第四号議案 ㈱ヤクルト本社との契約改定

〇報告事項

①推進機構の定例理事会・臨時総会等の報告

②各県遊協立入検査員研修会の実施(12月3日)

③エコ遊技システムに関する質問項目

④リカバリネットワーク賛助会員加入

⑤2011電気使用量集計結果について

⑥多重債務相談窓口周知ポスター貼付依頼

⑦暴力団対策特別委員会開催結果について

⑧推進機構の「不正改造事案説明会」の開催

⑨セキュリティ対策委員会の開催結果

⑩中古機流通協議会の開催結果について

⑪遊技機リサイクル推進委員会の開催結果

⑫全日本社会貢献団体機構からの報告について

☆ホームページ開設のお知らせ

県遊協では、本年2月1日から「県遊協  
ホームページ」を開設いたしました。各県  
でも開設が進んでおり、山形もようやくと言うと  
ころです。「組合専用」以外誰でもアクセスす  
ることが出来ますので、組合活動を広くアピール  
していくようにしたいと思えます。なお、組合専  
用の「ユーザーID・パスワード」は事務連絡で  
お知らせいたしました。外に漏れることの無い  
ように十分注意して下さい。組合専用欄には、広  
告宣伝のガイドラインなどホール営業に必要な事  
項を掲載していますので大いに活用して下さい。



★遊技産業健全化推進機構は業  
界の総意で設立したものです。

昨年11月、秋田県において推進機構の「立入  
拒否事案」が発生したことは昨年12月号でお知  
らせしました。2006年8月、我々業界は不  
正根絶のため一丸となって推進機構を設立、各  
ホールが設立した機構に対し「誓約書」を提出  
し、随時無通知での立入検査に協力することと  
した。従って我々ホールは誓約書に明記さ  
れている条項を守る義務を負っているのです。  
しかし、今回の事案後の調査において、この  
ことを理解していない県遊協の理事長や役員・  
店長などが居ることが判明したと業界紙が伝え  
ている。その訳は、理事長や副理事長など役員  
の交代や店長等の人事異動等が影響している  
こと。全国には11000のホール・数千人  
の本ホール経営者・約30万人の従業員がおり、全  
ての人にコンセンサスを求めるのは大変かもしれ  
ない。だが、我々はこの業界に身を置く限  
り、健全化推進機構は「業界の総意で設立した  
こと」をもう一度しっかりと身体にたたき込む  
必要があると思う。機構によると、怒鳴られた  
り文句を言われたり、迷惑がられたりしながら  
立入検査をしている現実がある。各ホールの  
責任者や従業員は、今一度機構設立の経緯や  
仕組み、責務等について勉強し、積極的に協力  
していただきたいものです。

▼巡回用ジャンパーを配布

組合員ホールからの要望があった「巡回用  
ジャンパー」を購入して各ホールに2着宛配  
布しました。駐車場やホール周辺の巡回時には  
必ず着用し、「見せる巡回」に務めていただき  
たいと思えます。着用することによってお客様  
に「巡回していること」を伝えることが出来ま  
すし、各種犯罪の予防効果も期待できます。  
また、巡回は「子供の車内放置事故防止  
の特効薬」となります。必ずジャンパーを着  
用して巡回してください。このことは業  
界挙げて取り組んでいる活動です。

なぜ若者はパチンコ・パチスロをしなくなったのか

仮説1「デフレ不況と変化した価値観」  
バブル崩壊から20年、日本経済はデフレ  
不況に苦しみ低成長を余儀なくされ、中国  
に追い抜かれるなど瀬戸際である。消費者  
は、プライス・ダウンを歓迎し「安くつい  
い物」をどう入手するかに傾斜して行く。  
20代前半の若者の大半はこの失われた20  
年に育っており、消費しないスマートさを  
認める価値観、つまり「消費レス」を美德  
とする価値観が備わっているという。  
それを証拠立てているのが若者のインタ  
ーネットの圧倒的な支持であるとされる。  
結論として「金がかかるのでしないのだ」  
仮説2「一人没入して遊ぶ世界？」  
基本的に「人が好きな人がネットにはま  
る」。人をコレクションするそのやりとり  
が楽しい。ネットゲームも同じでコレクタ  
ーとして趣味の強い人がはまっていく。  
一方パチンコ・パチスロはその対極にあ  
るといえる。ネットユーザーは人とのネット  
ワークを求めるが、パチンコは基本一人  
遊ぶもの。要するに他人とつながりを持つ  
世界に対してパチンコは他人に干渉され  
たくない世界なのだ。個人の世界よりも人  
のつながりを持つことを今の若者は選択し  
たらしい。結論として、ネットと対極にあ  
る「パチンコ・パチスロは何処か古くさい」  
と映っているという。



一年間毎月載せて頂いています。  
一月から写真が変わり3人のお  
願いとなりました。寒い中、巡回は  
大変でしょうがよろしくネ。

編集後記(熊坂)  
安部内閣が就任当初から次々にストレートパンチ  
を繰り出したことにより、円安・株高騰など経済  
がようやく動き始めました。円安によるガソリン  
等の値上げなど、まだまだ不確定要素はあるもの  
の、日銀も内閣に同調するなど、「何か動く」と  
いう将来の希望が出てきたことは喜ばしいこと。  
大震災の復興は大前提だが、20年続いたデフレが  
改善されれば業界にも朗報となるはず。

遊技産業健全化推進機構は業界の総意で設立したものです。